



『教会はキリストの体、一人一人はその部分』

コリントの信徒への第一の手紙12章27節

日米合同教会は、特にニューヨーク市近郊に住む日本人並びに日本に関心を寄せる人々に、礼拝、交わり、学び、伝道・宣教の業を通してキリストの福音をのべ伝え、キリスト者として共に信仰を深めていくことを目的とする信仰共同体です。

◇日曜礼拝説教より◇

■11月20日 テリノ尊子先生「私の父は農夫である」ヨハネ福音書15章1節—8節 今日、の聖書箇所では「私はぶどうの木、あなた方はその枝である」というイエス様の言葉が有名ですが、今日の説教の題はあえて「私の父は農夫である」としました。それは、イエス様がぶどうの木で私たちが枝であるというだけでは不完全だからです。神様が農夫であるという理解があつて始めて、木であるイエス様と枝である私たちの関係が出来上がっているのです。◆「私はまことのぶどうの木、私の父は農夫である、私にとどまっていながら実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをされる。」とあります。この箇所を理解する上で大切なことは、このすぐ後、「私の話した言葉によって、あなたがたはすでに清くなっている。」とあることです。これは急に文脈から離れたことを言っているように聞こえますが、この福音書が書かれたギリシャ語では、この清くするという動詞と、農夫が「手入れをする・刈り込む」という動詞は同じ言葉なのです。ですから、イエス様が「あなたがたはすでに清くなっている」と言われているということは、弟子たちに、「あなたがたは『実を結ぶために手入れをされている枝』なのだよ」と語られているのです。◆イエスを信じて従おうとする人は皆、上出来不出来はあつてもイエスの弟子ということになります。ですからこの言葉は、クリスチャンの人とクリスチャンでない人を区別しているのではなく、私たちがも含めてイエス・キリストの言葉に耳を傾ける者に向けられた言葉なのです。私たちは、自らの至らなさにもかかわらず、イエス様の言葉によって、より豊かな実を結ぶように父なる神によって手入れをされているのだということになります。ここに私たちが神様の関係が示されています。◆この手入れという作業のうちには、成長を妨げるものを刈り込むということもあり、枝が伸びたい放題にさせるということではありません。私たちの人生には「挫折」や「失敗」としか思えないような体験もよくありますが、そういうことがあつても、いやそういう経験をしている時こそ、この言葉は私たちに励まし、生きる希望を与えてくれます。そこで人生の軌道修正がされ、神様が良しとする実を結ぶべく、私たち自身が刈り込まれているからです。それは農夫である神様が良しとする実を豊かに

に結ぶためなのです。◆キリストに従う者とは、キリストにつながっている者です。それは私たちが必死にしがみついでどうにか保たれる関係ではなく、神様の意志により、枝としてキリスト・イエスのぶどうの木につながれているという関係です。「人が私にとどまっておられ、私もその人にとどまっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。私を離れては、あなたがたは何もできないからである」。これが、キリスト者である私たちの、イエス様と、神様との関係の大前提です。7節では、「あなたがたが私にとどまっておられ、私の言葉があなたがたの内にいつもあるならば、望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる」とありますが、これはクリスチャンになったら人生願う通りになるということではありません。私たちが本当にイエス様の言葉に従って生きていくのであれば、私たちの望むところとは神様のみこころに合うということなのです。それが可能なのは、神様が愛情をもって私たちを育てて下さるからです。最後の8節では「あなたがたが豊かに実を結び、私の弟子となるなら、それによって、私の父は栄光をお受けになる」と言われています。私たちがイエス様につながっていることには、弟子となり実を結ぶという大きな目的があります。それによって神様の愛の業が世に輝かしく示されるのです。◆では、一本のぶどうの木から沢山の枝が出て、豊かな実がなるのを想像してみてください。農夫が丹精こめて手入れをしてくれれば、枝はそれぞれ実を結びますが、全て同じ一本の木につながっているのです。つまり私たちは、一人ひとりがイエス様につながっているだけでなく、イエス様を通して互いにつながっているのです。ですからこの箇所は、私たちの個人的なイエス様と神様との関係だけではなく、信者の集まりである教会の一員としてのお互いのつながりをも意味しています。さて、私達は豊かな実のなった教会でありますでしょうか。◆今日これから、神様の豊かな恵みを覚えて感謝祭の食卓を皆で囲みます。この世の実りを頂く時、私たちがまた孤立した枯れる枝ではなく、お互い生きたぶどうの木につながった枝として、神様という万能の農夫に育てられていることを覚え、感謝して頂きましょう。

■11月27日 岡田圭先生「永久の愛」ルカ福音書10章25節—39節 今日、の聖書箇所は皆さんよくご存知の良きサマリア人の話です。ある人が強盗に襲われて怪我をして道端に倒れていたのに、祭司やレビ人はそのまま通り過ぎてしまったのに、日ごろユダヤ人から差別されていたサマリア人だけが彼を助けた、「あなたも行って同じようにしなさい」とイエスは言われます。注意したいのは、この話の導入部分です。◆「どうしたら永遠の命が得られますか」とある律法学者が質問し、イエス様が「律法にはどうあるか」と彼に聞かれます。学者が「心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神様を愛せよ。また、自分を愛するように隣り人を愛しなさい」と律法を引用すると、イエスは「その通りに行いなさい」と言われます。すると学者は、「わたしの隣り人とは誰ですか」と尋ねます。ここに私たちの

傾向が現れます。私たちは人間関係の中に評価や区別を入れたがりません。だからこの質問には、「誰を大切にしたいのかですか、誰が私の愛を受けるにふさわしい隣り人なのかですか」という計算ずくな思いが込められています。しかし、「あなたも行って同じようにしなさい」という主イエスの「良きサマリア人の話」の結論は、この質問の意図をひっくり返すものでした。誰が隣り人となるにふさわしいかというのではなく、あなたが隣り人となりなさいということなのです。ここに、神様の目から見て「生きる」ということの鍵があります。愛がなく、隣人関係がなければ本当に生きていくことにはなりません。キリストから救いを頂き、力を頂いて愛することを体験して行くのがキリスト者の人生です。◆10月に天に召された湯沢ジョージ兄の人生はそのような生き方でした。湯沢兄は戦時中は収容所に入れられ、妹を失い、家産を失うという辛い体験を経られましたが、それを怒りや憎しみに変えることをせず、多くの人を愛すること、他の人のために自らが架け橋となることを選ばれました。奥様のキミ姉もそれに付き添われ、苦しみと働きを共にされました。ご夫妻が示された人生に、私たちは応えて行きましょう。人を愛する人生へと主イエスは私たちを導かれています。教会にはこの招きに応える準備がありますか。アドベントの始まりにあたってこのような招きを受けていることに、感謝すると共に神様に祈りましょう。

◇教会活動報告・スケジュール◇

■**秋のゲストスピーカー牧師一覧** 11月・12月の日曜礼拝でお話して下さる牧師先生は下記の通り。12月11日：信徒によるメッセージ(今戸ちづ子姉)、18日：カルビン神学校の漆崎ひとみ姉(同神学校のピョートル・コロニコフ兄が英語担当)、25日：山本アンドリュー先生、1月1日：鈴木有郷先生、8日：スタンリー・ウェイン先生、22日：テリノ尊子先生、15日並びに29日は未定。

■**クリスマスの予定** 12月18日には、今年もクリスマス祝ってポットラックのランチを行います。料理のサインアップシートがありますので、14日までにどうぞご記入下さい。また、テーブルのセットアップ、盛り付け、配膳、皿洗い、掃除など当日のヘルパーも多数必要です。ご協力をお願いいたします。◆12月24日(土)には午後7時よりクリスマスイブ礼拝が持たれます。司式は山本アンドリュー先生。今回は、器楽伴奏なしにアカペラでクリスマスの歌を歌って賛美する予定です。翌25日にはクリスマスサンデーの礼拝が行なわれます。◆感謝祭に続いてクリスマスに寄せられた寄付のうち、25%は合同メソジスト教会の救済局を通じて東日本大震災の被災者、干ばつで食糧危機にあるアフリカ(ソマリアなど)の人々のために、また米国改革派教会を通じてハリケーン・アイレーンの被害を受けたNY州内の教会の支援のために用いられます。◆クリスマス・キ

ャロリングは12月10日(土)に行われます。病気などにより教会に通えない兄弟姉妹を訪ね、賛美歌を歌う予定です。

■**建物修復** 建物修復の工事は着々と進み、教会正面の壁には白色のストッコ(漆喰)が施されました。非常口の標識・灯火の設置も近日中に完了する予定とのことです。地下台所のアンスル・システム(自動消火装置)は、市当局の許可証が交付され次第直ちに取り付けられます。◆上記とは別に地下の蒸気パイプを3200ドルで、また故障していた3階の男子トイレも修理しました。台所にあった使用不能のオープン、処分の必要があったため価格200ドルで業者に買い取ってもらいました。

■**牧師館の修理** 牧師館の修理工事は無事完了しました。車庫前の車道は水はけが悪く、牧師館の地下にまで水がしみ込んでいたため、地下室に防水加工を施した上、車道を修理しました。

■**映画上映会のお知らせ** 11月からJAUCでは、毎月1回無料の映画上映会を開催しております。今後のプログラムは、1月7日午後7時より「Fireproof」、2月4日午後4時より「The Chronicles of Narnia - Part 1」です。いずれも話題作です。言語は英語ですが、日本語のストーリー要約が用意されます。お知り合いの方々をお誘いの上、是非いらして下さい。

■**月例財務報告** 10月中に寄せられた通常献金(プレッジ)は4930ドル、その他の献金等を含めて10月の総収入は8442ドル15セントです。支出は8352ドル79セントでした。1月から10月までの総収入は13万8270ドル84セント、総支出は14万ドル958ドル99セントとなっております。

■**会計よりお願い**：2011年12月までのご献金は12月31日までに教会事務所に届くようお願いいたします。

■**アルファコース** 「キリスト教は初めて」という方のための入門コース「アルファ」の秋期セッションが先月無事終了しました。



春のコースは2月より始まりです。詳細は丸橋ダウズ理加姉へ。

■**感謝祭** 11月20日の感謝祭日曜礼拝・昼食会には90人

ほどの方々が出席され、共に神様の恵みに感謝する時を持てました。お手伝いをして下さった皆様に心から御礼申し上げます。

■**イザベラ礼拝** 12月4日に行われたイザベラホーム礼拝・聖餐式には、25名の方々が参加されました。鈴木エドナ姉も来られ、感謝です。

■**2012年度子供キャンプの計画** 来年度の夏期「ディスカバリーキャンプ」の準備委員会が11月28日、吉松純先生の指導のもとJAUCで持たれました。2012年度のキャンプは7月12日から

日米合同教会月報76巻2011年12月号

27日にかけてロングアイランドのシェルター島で開催されます。募集人数は25名です。テーマは、大正期の女流詩人金子みすずの詩から取り「みんなちがって、それがいい」となりました。聖書の主題は「自分を愛するように、隣り人を愛しなさい」「神の目には一人ひとり尊い」などです。参加費は1人1400ドル(兄弟姉妹割引あり)。1月-2月から本格的に宣伝活動を開始しますので、皆様ご協力よろしくお願ひいたします。

■**月報の運配** 月報のうち、200部ほどを毎月冒頭にBulk Mailという形で郵便局に委託してお送りしていますが、このほど、発送から配達までしばしば2週間かかっていることが分かりました。今後は発送日を極力早めにして郵送するようにいたします。

◇メンバー関連◇

■**神塚リリー姉の帰天** 神塚アーサー先生の奥様リリー姉が11月27日午前、イザベラホームにおいて安らかに天に召されました。89歳。3日前、訪問されたご家族と感謝祭をお祝いしたばかりでした。12月17日(土)午前10時半よりイザベラホームのLarson Libraryにおいてメモリアル・サービスが行われる予定です(事務所に確認下さい)。63年にわたり愛情深い伴侶であった神塚先生に、神様の慰めと支えがあるようどうぞお祈り下さい。

■**湯沢キミ姉の帰天・湯沢ご夫妻のメモリアル・セレモニー** 故湯沢ジョージ兄の奥様キミ姉が11月26日、帰天されました。94歳でした。キミ姉は結婚後71年にわたり、ジョージ兄の活動的な生活を献身的な妻として支えて来られました。また、料理の腕を生かして教会のバザーなどのために多くの働きをされたことは、私たちの記憶に深く残っています。◆湯沢ご夫妻のメモリアル・セレモニーが11月27日、日曜礼拝の間にJAUCで持たれ、130人ほどの方々が出席されました。司式は岡田圭先生です。セレモニーでは、山口一雄兄、斉藤不二夫兄、山口アイリーン姉、湯沢ルービン・パトリア姉がスピーチをされ、お二人の思い出を語られました。なお、礼拝中に歌われた讃美歌「聞けや愛の言葉を」「いつくしみ深き」「われをも救いし」はジョージ兄の愛唱歌です。◆同27日午後にはJapanese American Associationでもご夫妻しのぶ集いが開かれました。スーザン大沼姉が司会を、吉松純先生が聖書を朗読されました。また翌28日午後にはイザベラホームでもメモリアルサービスが行われ、渡辺よし子姉などイザベラの合唱団の方々が歌を歌われました。◆「ジョージは入院している人に花を贈る時には、必ず花瓶も持って行きました。病室に花を入れる容器がないことを考えての上です。それだけでなく、3日後に花瓶の水を取替えに行きました。彼はフォローアップの必要を知っていた人で、ただ何かをするだけの人ではありませんでした。」「良い男性の後ろには、必ず良い奥さんがいるものです。キミはそういう女性でした」。こうした声を聞いていると、「私たちがいつも気にしていることは、何が出来、あるいはこれ

から何が出来るか、ということであるにもかかわらず、実際に記憶に残るのは、どういう人であったか、ということなのです。」というヘンリー・ナウエン師の鋭い言葉が思い出されます。

■**荒井繁子姉の訪問** 数年前に帰国された荒井繁子姉が11月にNYを訪問され、6日・13日の礼拝に出席されました。

◇地域教会ネットワーク◇

■**VIP集会** 11月14日のVIP集会では、東京で宣教師として奉仕され、現在は牧師の他に弁護士としても働かれているスタンリー・ウエイン先生がお話して下さいました。12月12日に予定されている集会では、バレエダンサーの今泉友希兄がクラシックダンスと証しをして下さる予定です。今泉兄はミラノ・スカラ座のバレエ学校に留学中、2005年に洗礼を受けられました。◆NY・NJ地区の日本人信徒が集まって学びや証しの時を持つこの集会は、毎月第2月曜午後7時15分からJAUCで開催中。

■**笹森先生、ビートたけしと対談** JAUCの姉妹教会・駒場エデン教会の牧師笹森建美先生が、先日ビートたけしと対談され、その記事が『新潮45』9月号に掲載されました。全12ページ、写真も8枚入った大きな扱いです。笹森先生は小野派一刀流の宗家でもあり、駒場エデン教会は椅子を片付けると道場に早変わりする珍しい教会です。話題の中心は剣術の真髄、武士道に見られるキリスト教道徳と共通する精神など。たとえば、小野派一刀流の極意「切落(きりおとし)」によれば、「切り落とすべきは、まず自分の思いを見極めることによって見えてくる心の中の欲や、おごりや悪心である」とのこと。また武道では相手と向かい合うので、「相手の中に見られている自分を見る」ことになり、これは互いに個性を大切にすることになる、だから負けた時も、自分に隙があるから負けたのであって、相手は自分の隙を教えてくれたんだから、相手に対しては『ありがとう』と言うのが剣の精神である、とも言われています。たけしも大変感銘を受けたようで、「今の政治家や官僚たちにも一度、この教会に来てもらって、先生から武士道とキリスト教の話を聞いたほうがいいね。」と対談を結んでいます。同記事のコピーが教会図書に複数あります。

◇祈りのリクエスト◇

東日本大震災の被災者の方々、並びに次の方々を祈りに覚えて下さい。ロベルト・アセバード(アセバード兄のお父様)、バーバラ・アレキサンダー師、浅井ひさよ、岩佐敏夫、奥田久子、小口愛(アトランタ・ウェストミンスター教会)、神塚アーサー師、神崎ヨネ、桑田ハリー、ゴーマン美智子、富田百合子姉、堀内マリーサ、松本二三子、向井ジョージ(ベイサイド在住)、向井ジョージ(アーティスト)、保坂田鶴子、山崎あきら(堀内姉のお兄様) 諸兄姉

スモール・グループ

スモールグループは教会員の霊的成長のための教会プログラムです(自由参加)。少人数での交わり(フェローシップ)を通して、クリスチャンとして実生活でどう生きるかなどを考え、互いに支えあい高めあうことを目的とします。時刻は変更されることがありますので、各グループの担当者または月報を確認下さい。

SG 1. 女性信徒の学び会(ハイリಂಗル) 第2、4土1時 園田姉宅
SG 2. 日本人女性の会 第2火11時 日下部姉宅

日米合同教会月報76巻2011年12月号

- SG 3. 男性信徒の学び会(ハイリソガル) 第2、4日9時半 教会(日下部兄)
SG 4. 日本語での学び会 第2日2時 教会(春日姉)
SG 5. 日本語「葡萄の木」の会 第1日2時 教会(小林姉)
SG 6. 日本語「証しと祈りの会」 毎月最終金夜7時 寒河江兄宅
SG 7. 英語での学びの会 毎月第3日曜 教会(吉田夫妻)